



1 履歴

大正2年(1913)瓜連村古徳に生まれました。水戸高等学校を経て京都帝国大学法学部に入学、昭和15年(1940)に大学を卒業しブリジストンに入社するも、同年、大東亜戦争(太平洋戦争)に従軍しました。昭和21年に復員して青年文化運動に参加。昭和22年瓜連町長に当選、同町農業協同組合長を兼ねます。昭和26年に町長を辞任し、茨城キリスト教短期大学講師を経て、昭和27年アメリカ合衆国ペパダイン大学へ留学。地方時事や社会福祉を研究し、帰国後、昭和30年に町長に復職。昭和34年(1959)、社会党および茨城県興農政治連盟の支援を受けて茨城県知事選に出馬、「4選阻止は天の声」のローガンの下、自民党支援で4選を目指した友末洋治氏を破って45歳5ヶ月の若さで初当選。昭和49年茨城県立歴史館オープンと茨城国体を成功させて昭和50年に茨城県知事を辞職。茨城県立歴史館長を務めたのちに、昭和53年に参議院議員に出馬当選を果たし、昭和62年に議員立法として「公文書館法」制定を成し遂げました。平成元年(1989)死去(享年77歳)。

2 「マイナスからの脱却」と「一粒の麦」

生まれつき体が弱く、控え目な性格でしたが、中学時代に所属していた剣道部の先生の一言で発想の転換を果たし、それまで弱点だと考えていた左利きを逆に生かす方法を考えます。こうした経験から生まれた「マイナスからの脱却」という発想が、のちに政治活動に生かされます。「農地解放」「無電燈部落解消運動」「鹿島開発」「筑波研究学園都市建設」「米軍水戸射爆撃場返還運動」「田園都市構想」「霞ヶ浦用水事業計画」「重度心身障害者施設コロニーの建設」などの諸政策はすべて「貧困からの解放」、つまり「マイナスからの脱却」を目指したものであったようです。

また、岩上氏は、敬虔なクリスチャンでもあり、聖書の一節である「一粒の麦※(地に落ちて死なば、豊かな実結ばん)」を座右の銘とし、政治家としての心構えとしました。

※「一粒の麦」とは、「一粒の麦は地に落ちることによって無数の実を結ぶ」と説いたキリストの言葉から、人を幸福にするために自らを犠牲にする人。また、その行為のこと。

3 茨城県立歴史館創設と公文書館法の制定

昭和38年(1963)から始まった「茨城県史編纂事業」のヒントは、徳川光圀の「大日本史編纂事業」にありました。さまざまな史・資料を発掘・収集・整理・保存することがなくては真の歴史の評価はできないというのが「茨城県史編纂事業」に対する基本的な考え方でありました。

(岩上二郎氏の著書『公文書館法への道』からの要約引用)

この考えのもと、さらに調査研究も加えた成果を県民と共有財産とするために建設されたのが県立歴史館であり、文書館的機能と博物館的機能をもった施設を全国に先駆けて「歴史館」と命名したことも岩上氏の新鮮な発想であったといえましょう。それはやがて文書保存の重要性を世に知らしめることになる日本で初めての「公文書館法」成立に結びつき、国立公文書館の創立へと発展していったのです。

4 鹿島開発

この港づくりは、だれからの要請でもない。この一帯の貧困からの解放をめざし、1400年前の鹿島文化の遺跡と、徳川幕政から明治初年にわたる掘割川の歴史との対話の中から、つかみとった自然への挑戦史であり、また、血の出るような農民の土地を生かそうとする「農工両全」の思想展開の動機付けでもある。(鹿島港にある記念碑文の一節から)



岩上二郎慰霊碑(那珂市古徳)